

宮原りえ

まちづくり通信



清瀬市議会議員

市政レポートNo.39
2021年10月発行



宮原りえ オンライン報告会

第3回

日時:2021年11月7日(日)
15:00~16:00ごろ

※URLなど詳細は事前に掲載します。

→ [ブログ](#) ・ [Twitter](#) ・ [Facebook](#)



YouTubeとツイキャストで配信予定です!



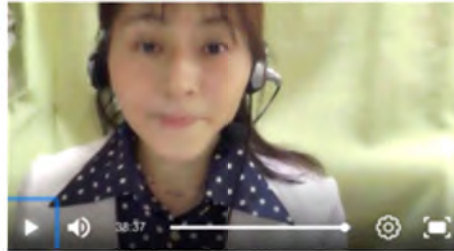
2021.05.22宮原りえ報告会002 - 宮原...



宮原りえ(清瀬市議)
@riemiyahara0428

ライブ [ライブ履歴](#) [サブスクリプション](#) [コミュニティ](#)

2021.05.22宮原りえ報告会002 [動画](#) [ニュース](#) [投稿](#)



5月の報告会の様子

お困りごと相談会

福本麻紀さん(社会福祉士)に
同席いただきます



2021年

第27回 10月24日(日)

第28回 11月21日(日)

第29回 12月19日(日)

午後
1時半~
3時半



リモートオンライン相談もできます!メールにてお申込みください。
(オンラインの場合、日時もご相談ください♪)

zoom, Googleミーツでご相談可能

※LINEが繋がってる場合ならLINEでもOK!



陶器の店 **ポロロカ** 隣のギャラリー

清瀬市松山2-9-6
(松山地域市民センターそば)

感染症対策
として



予約は必要ありません、お気軽にお越し下さい。お待ちしております!!

主催:新型コロナ
災害緊急アクション

～宮原りえの一般質問(要旨)～

<6月議会>

教育の諸課題について

【特別支援学級の配置計画】

特別支援学級は、人数が増加している「知的学級」を拡充すべきではないか。通学の負担を減らすため、空白地域に(知的・情緒ともに)設置校を増やせば教員の加配にも余裕が出る。

【学校再編計画】

公共施設再編計画に伴う学校再編について、意見交換会では小中一貫校について根拠に乏しいメリットばかり強調せず、デメリットの克服方法について、市民とともに考えていく姿勢が必要。

1学級は30人以下が適正と考える。現状・計画を正当化するような「適正数」は疑問。



現場の先生方の声を各計画に反映させることを求める

【主権者教育】

2016年に選挙権年齢が20才から18才へ引き上げられて6年。これまでの投票率はどうだったのか。若者の声を反映させることができたのか。学校などでの主権者教育の取り組みはあるのか。



【マスクの着用について】

1) 保育現場で保育士がマスクを常に着用すると、口元が見えないことで乳幼児の心と脳の発達への影響が懸念される。子どもに話しかけても表情が乏しかったり、反応が鈍かったりするという。口元が見える透明素材のマスクを取り入れられないか。

2) 通学路や体育の授業でのマスク着用で、熱中症が懸念される。文部科学省は熱中症対策を優先する方針を出し、登下校中は積極的にマスクを外すように声かけをすと言っている。距離を取れる場合は外すような指導を求める。

【スクール・セクシュアル・ハラスメントの防止について】

子どもへの性暴力は表面化しにくいのが、近年、保育教育現場における深刻な被害が次々と明るみに出るようになった。

ケース1) 2019年、関東の小学校の男性教師が6～12才の7人の女子児童へのわいせつ容疑で懲役14年の実刑判決。裁判長:「低学年の被害児童においてはいずれその被害の意味を理解し(中略)人格形成に多大な悪影響を及ぼしかねない」。

「熱心な教師」と、同僚から信頼されていた...!

ケース2) 清瀬の近隣の中学校でも2017年、女子生徒数名へのわいせつ行為(膝にのせて腰や足を触るなど)で男性教師を処分。

「停職6か月」=職場復帰の可能性に保護者から不安の声が上がった

※その他、沖縄で、信頼する教師からわいせつ行為を受けた生徒が自死するケースetc.

小児わいせつは再犯率・常習性が高いが日本では処分されても数年で復帰が可能・業界を変えると容易に復職できてしまう。

※先進国では、子どもに関わる仕事に就くには「犯罪歴証明書」等が必要

今年5月「教育職員等による児童生徒性暴力等の防止に関する法律」成立!

(失効した免許の再交付を認めない道が開けた)

清瀬市として、以下の取り組みを求める。

- ガイドライン策定
- 教員への研修
- 子どもが相談しやすい体制
- 「いや」と言えるための性教育



<9月議会>

【新型コロナの感染リスク増大に備えて】

1) 自宅療養者への支援

市内で自宅療養を強いられる方々について、東京都(保健所)から情報が来ない中、清瀬市として自己申請による食料などの支援を始めていることを評価する。

◎先進市の国立市では、市役所内で横断的にチームを作り、買い出し・配達などの業務を分担している。清瀬市でも健康推進課に負担が偏らないようにしてはどうか。

◎国立市では医師会と連携し、情報の共有・訪問診療・訪問看護も実現している。清瀬市医師会では電話による診療を始めるとのことだが、オンライン診療が進む地域もある。診療報酬等も含めてシステムを整備すれば、今後、通院が難しい方々の利便性アップにも繋がる。



2) 検査体制の拡充を

感染拡大で感染者と接触する機会も当然増えているが、保健所が濃厚接触者と判断しない限り、公費で速やかにPCR検査に繋がれない状況は続いている。

不安を感じながらも仕事を休めず、感染を拡げるケースもあるのではないかと。「人と会う前に、歯磨きをするような感覚で低コストで検査をできる体制が必要」と医療関係者が指摘している。検査を希望する市民に対し、検査費用を補助できないか。

◎子どもたちの修学旅行など宿泊行事での感染拡大を心配する声を、医療関係者から聴いている。出発の2-3日前に検査をすることで少しでもリスクを回避できる。検査費用は必要経費だと考えるが、見解を伺う。

【子どもたちの最善の利益をはかるために】

国連の「子どもの権利条約」批准(1993年)以来、日本でも条約にのっとった法整備が求められてきた。特に昨今の貧困など厳しい状況に対応するには、根拠となる「子どものための総合的な法律」が必要である。

今年5月、日本政府が「子ども庁」創設の方針を出したが、立憲民主党として「子ども総合基本法案」を提出した。

◎権利条約は「子どもの意見表明権」を重視している。基礎自治体として子どもを主体にした「子どもの権利条例」制定を。

◎スクールソーシャルワーカーの配置と機能の拡充を。

◎不登校の子どもたちの学習機会の確保のためのフリースクール等との連携の強化を。



※答弁は「市議会だより」や
清瀬市HPをご覧ください



3) 子育て家庭の支援について

◎子育て家庭で親が感染した場合、幼い子どもの世話は困難を極める。保健所(東京都)はどのような対応をしているのか。

ケース1) 両親ともに発熱し、幼い子どもたちを隔離することを断念。濃厚接触者である子どもたちを人に預けることはできず、高熱の中、自炊・入浴などの子育てをした。

隔離が終わるころに届いた東京都からの支援物資は大人向けレトルトだった。子どもが食べられるものや食材、感染予防の消毒やペーパータオルが欲しかったという。

ケース2) 両親とも入院。濃厚接触者の小学生の子ども2人が自宅で過ごした。

zoomやLineで連絡を取り合い、非常食の他、近所の方が料理をドアノブにかけてくれた。

障害のある子どもだったり、ひとり親だったりすると更に困難が予想される。

本来であれば、軽症であっても早期に十分な治療を行い、自宅療養ではなく、家族ごと、医療の提供できる機関・施設に隔離できる体制が必要。清瀬市として、各家庭のニーズに合った物資を届ける等の支援を求める。

◎保育園や学童クラブで感染者が出た場合のガイドラインについて。検査体制や休園の際の代替の預け先について伺う。

コロナによる休園の際に使える「東京都ベビーシッター利用支援事業」がある。

待機児となった子どもの預け先として安価で利用できる事業であり、今後のためにも清瀬市として導入を求める。

【子ども総合基本法案】

- ★予算の大幅な拡充
- ★社会全体で子どもの育ちを応援する「チルドレンファースト」の理念
- ★妊娠前から成人後までの切れ目のない支援
- ★子どもの貧困率を10年で半減させる
- ★子ども省の設置etc.

インターンの学生さんを受け入れました！



狛江でスクールセクハラについてヒアリング(高木さとこ市議と)

相談会ポスティング

フラワーデモ@所沢

議会傍聴

森沢事務所(日野)のインターンさんと「未来国会」の打ち合わせ

この夏、法政大学の渡部さんを受け入れました。ドットジェーピー(*)から連絡を頂いた時、「コロナで行事が中止になったり、長時間一緒に過ごしたり都心に出ることも難しい状況で、受け入れて良いものだろうか」と、かなり悩みました。しかし、大学生も沢山の学びの機会を奪われていることを思うと、私が受け入れることで少しでもその機会を提供できるだろうと考えた次第です。結果的に、猛暑の中あちこち連れ回しましたが、何事にも前向きに取り組み、自分の言葉で語るうとする姿勢が印象的でした。

駅頭で街宣活動

*** NPO法人ドットジェーピー:**
議員事務所・大使館・NPOでのインターンシップなどにより若者と政治を結び、若者の投票率を上げ、「日本を前進させる」ために活動。



宮原りえの活動日誌

各選挙の応援へ



清瀬市議会や立憲民主党内で各種勉強会を企画し実現



↑「性犯罪に関する刑法改正」

「二中 金融プロジェクトの取り組み」↑



自然を守る会の栗山さんと、市内民家の自然豊かなお庭を訪問



念願の親子傍聴席



ふたごじてんしゃ 試乗会@武蔵村山市

【宮原りえプロフィール】

- ◎1972年福岡生まれ。九州大学法学部(政治学)卒。◎中学で卓球部・高校で空手部・大学で合気道部 ◎3年間商社勤務後、東京大学大学院人文社会系研究科 修士号(社会情報学)
- ◎NPO法人Our Planet-TV(インターネット放送局)勤務。 ◎「ヒバクシャ～世界の終わりに」「新・あつい壁」など映画配給に従事。 ◎元フェリス女学院大学非常勤講師(映像制作)
- ◎2011年4月清瀬市議会議員選挙に映画の仕事のご縁で民主党より立候補し当選。2018年より立憲民主党/現在3期目。◎総務文教常任委員会委員長を経て、現在、建設環境常任委員会・議会運営委員会・多摩北部都市広域行政圏協議会・三多摩上下水及び道路建設促進協議会に所属。
- ◎自治体議員立憲ネットワーク・子育て議員連盟・LGBT議員連盟などで活動
- ◎事実婚の夫(別姓で渡部)とともに小学生と高校生を子育て中。
- 第1保育園・七小・竹丘学童クラブ・市保連などで役員として長く活動。
- ◎原発事故後、放射能から子どもを守る活動に取り組む。主に子育て分野で精力的に活動。
- ◎新型コロナ災害緊急アクションに参加し、清瀬で月1回の相談会を継続中。

発行元:宮原りえと優しいまちづくりの会
清瀬市松山2-4-20-201 TEL:090-6165-5715
miya6024@yahoo.co.jp, wappoo@ezweb.ne.jp



Mail



Facebook



Twitter